

1. 選択・判断する場を設けることで、活用する楽しさを味わえるようにする。

様々な場面で子どもが身に付けた知識・技能や見方・考え方を活用する力を高めていくためには、子どもが自ら選択・判断していく経験を積むことが大切であると考えます。そして、自分の選択・判断したことが妥当であったり、友達から認められたりしていくことで、子どもは自信をつけ、より進んで自分の知識・技能を生かし、見方・考え方を発揮し、学習や生活の場面で活用していくと考えました。

そこで今回は、商品は同じだが値段の違う2店を掲示し、「どちらの店をお勧めするか。」という場面を設定した。教科書では、「どちらの店が安い？」という場面だ。しかし、子どもが「自分のお勧め」を考えることで、学習してきたことと、問題場面や生活経験とを結び付けながら、学びを活用していくと考え、実践にあたった。

2. 自分の気持ちを大切にしたり、より日常と近い条件を提示したりすることで、活用の幅を広げる。

はじめに商品（ノート、ボールペン、鉛筆、消しゴム）を提示し、「どれが欲しい？」と問うた。子どもは「小さくなってきたから消しゴム。」「お絵描きがしたいからノート。」などと自分の気持ちを語った。その後、2店の値段を提示した。（右図「値引き前」参照）この段階では、子どもは「全部安いB店がお勧め。」と言っていた。その後、「15円の値引き」という条件と、「値引きは月末まで」という条件を提示した。前者は教科書にある条件だが、後者はより生活に近い場面にするために設定した。まずは計算し、値引き後の価格（右図参照）を確認した。後に「どちらの店を進める？」と問うた。すると、「A店」「どちらもお勧め」「B店」と3つの立場で考える子が出た。A店を選択した子どもは「鉛筆以外の商品が安く、安い商品が多い店だから。」という考えであった。「どちらもお勧め」を選択した子どもは、「その人が欲しいものによってお勧めする店が変わる。」と考えた。B店を選択した子どもは、「次の月になれば値引き前の値段に戻るから、全てB店の方が安い。」と考えた。

このように、自分の気持ちを大切にしたり、より日常と近い条件を提示したりすることによって、子どもがこれまでの学びや生活経験を想起し、自分にぴったりの視点から、計算して処理した結果を活用していく幅が広がっていった。

3. 自分の選択・判断を整理するための「振り返り」の場を設けることで、活用する良さを実感する。

学習の終わりには、もう一度、「どちらの店をお勧めするか。」を書く場を設けた。すると、「鉛筆以外を買いたい人にはA店をお勧めしたい。」「鉛筆が欲しい人にはいつでもB店をお勧めしたい。」「と誰にお勧めするかで変わるという視点を大切に考えた考えや、「今月中はA店をお勧めするが、来月以降はB店をお勧めしたい。」「と、時間という視点を大切に考えた考えが出てきた。また、「普段のお買い物にも使えそうだから、引き算は大切だ。」と学びの価値を感じた子どもも多くいた。

今回の実践で、自分なりに選択・判断をすることで、計算して処理した結果を様々な視点で活用する子どもの姿が見られた。また、最後に2度目の選択・判断の場を設けることで、自分の選択・判断と友達の選択・判断とを比較して考えを整理し、より多くの視点で物事を捉え、学びを活用していこうとする子どもの姿を見ることができたと思う。

値引き前				
A 店	98円	ノート	85円	B 店
	90円	ボールペン	78円	
	65円	鉛筆	48円	
	80円	消しゴム	70円	

どれでも
15円引き

ただし
月末まで

値引き後				
A 店	83円	ノート	85円	B 店
	75円	ボールペン	78円	
	50円	鉛筆	48円	
	65円	消しゴム	70円	